



(上) ベンチャー共創事業部 事業グループ 統括
BASE Q運営責任者 光村圭一郎氏
(下) Qスクールではイントレプレナーに必要な知識・スキルを獲得できる

東京ミッドタウン日比谷にある「BASE Q」は、三井不動産、電通、EY Japanが2018年に連携して設立した共創空間であり、コミュニティの総称だ。イノベーション創出を目指して、さまざまな組織から新規事業担当者が集い、価値創造や社会課題の解決の場となっている。

会員企業約10社のメンバーは、BASE Qのワークスペースやホール、ラウンジ、カフェなどで、1人でも、チームでも、事業構想のための時間をつくれる。また、ベンチャーキャピタリスト、コンサルタントなど専門家から学べる「Qスクール」では、事業立ち上げの基礎知識を得られる。多機能なメニューがそろい、かつ、緩やかな異業種ネットワークやマッチングサービスとは違って、“ガチ”で新しいビジネスを始める推進力が身につく。実際に、わずか1年足らずで新規事業が走り出した企業もあった。

運営責任者である^{こうむら}光村圭一郎氏が狙うのは、大企業人材が「イントレプレナー」となることだ。

「大企業の社員だからといって、必ずしも優秀な人材とはいえません。イノベーションを起こし、新しい問いを立ち上げられるかといえば、不慣れでやったこともないし、やる必要もなかったのではないのでしょうか」

何も手をほどきなければ、組織のなかで眠ったままの人材になってしまう。日本は世界から後れを取る一方ではないか。そんな光村氏の大きな問い=Qから始まり、BASE Qは駆動している。

「イントレプレナーには3つの力が重要。1つ目はマインド。2つ目はスキル。3つ目がネットワーク。終身雇用サラリーマンモードから、イントレプレナーモードに切り替えられるかが問われています。日本は大企業にいる彼らが新しい事業をつくってなんぼ、です」

表紙写真は、首都圏の緊急事態宣言が明けて、施設再開初日に撮影された。今後は人同士の距離を保ちながら、コミュニティを機能させるとともに、オンラインを併用することが必須。時代の課題に向き合いながら、新しいビジネスを切り開こうとする挑戦者に、BASE Qはこれからも「伴走」し続ける。

▶ **KAICAを支援する! JMAの事業活動のご紹介**



“イノベーション創出のヒント”を発信中。

大企業から、スタートアップ、官公庁、大学、研究機関など、**国内外との“つながり”を促進**しています。
深圳、シリコンバレー、イスラエル、シンガポールなどの**エコシステムに関するオンラインイベント**も実施中。

イベントの詳細はホームページでご確認ください。

JMA GARAGE

または

